

ゲキ×シネ 蛮幽鬼 ばんゆうき

[作] 中島かずき [演出] いのうえひでのり

[出演] 上川隆也 稲森いずみ 早乙女太一 / 堺 雅人
橋本じゅん 高田聖子 栗根まこと / 山内圭哉 山本 亨 千葉哲也

演劇雑誌「えんぶチャート2009」作品部門&俳優部門 第1位!

エンタメ界のトップを走る《劇団☆新感線》に上川隆也、堺雅人が参戦。

連日スタンディングオベーションが巻き起こった伝説の舞台が、
10月2日(土)より、《ゲキ×シネ》として全国の映画館に登場!



[映像製作]イーオシバイ [配給]ヴィレッチ ティ・ジョイ [舞台製作]松竹 [著作]松竹 ヴィレッチ

10月2日(土) 新宿バルト9、梅田ブルク7 他全国公開

■イントロダクション

毎公演、圧倒的な動員数を誇り、エンターテインメント界のトップを走り続ける《劇団☆新感線》に、上川隆也、堺雅人、稲森いずみ、早乙女太一ら豪華キャストが集結。

連日スタンディングオベーションが巻き起こり、伝説となった時代活劇『蛮幽鬼』が、ついにゲキ×シネとなって登場。



壮大な人間ドラマを深みのある音楽にのせ、激しい殺陣や大がかりな照明・映像など迫力の演出で魅せる《いのうえ歌舞伎》(※8P参照)。『阿修羅城の瞳』(2000年・2003年)『アテルイ』(2002年)『朧の森に棲む鬼』(2007年)に続き、歌舞伎の殿堂である新橋演舞場という大舞台で、2009年に上演した時代活劇『蛮幽鬼』。

『蛮幽鬼』のモチーフとなっているのは、デュマ作の『モンテ・クリスト伯』(巖窟王)。劇団☆新感線の座付き作家である中島かずきが、陰謀渦巻く架空の古代国家を舞台に、繰り返される過ちへと導かれる人間の業を深くえぐり出す壮大な復讐譚として描いた。その終わることのない復讐をめぐる人間ドラマを演出のいのうえひでのりが、繊細かつダイナミックに大舞台に立ち上げた。



連日超満員、毎公演拍手喝采に包まれた本作を、最新のデジタルシネマ技術によって収録。舞台では見落としがちシーンも立ち上げらせ、大胆にかつ細かな部分にまでこだわって入念に編集、ゲキ×シネとして生まれ変わった。映画館用に再調整された音が重ねられ、舞台とはまた違った迫力と興奮、そして新たな感動が味わえる。

主人公となる復讐の鬼《伊達土門》を演じているのは、『天保十二年のシェイクスピア』『SHIROH』に続き、いのうえ演出作品3度目の主演となった上川隆也。復讐に至った悲しみや怒りの表情が、スクリーンから溢れんばかりの迫力で観られる。



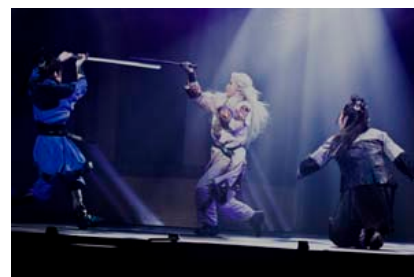
謎の殺し屋《サジと名乗る男》には、映画『ゴールデンランバー』『南極料理人』などでの主演が記憶に新しい堺雅人。不気味に微笑みを浮かべながら、激しいリズムに合わせて鮮やかに人を殺めるシーンは、圧巻というほかない。

大王の妃《美古都》を演じたのは、ドラマ『篤姫』『アイシテル〜海容〜』など映像界での活躍がめざましい稲森いずみ。凜とした中に秘める芯の強さが表れるシーンは、思わず涙が零れるほどに哀しく美しい。



妃の護衛に命を掛ける《刀衣》役には、大衆演劇界の若きスターで現代劇や映像などにも出演、活躍の場を広げている早乙女太一。劇場中が熱い吐息で包まれたほど多くの観客を魅了した華麗な舞と圧倒的な殺陣のシーンは、スクリーンで存分に堪能できる。

あわせて出演しているのは、新感線の舞台には欠かせない橋本じゅん、高田聖子、栗根まことなどのおなじみのメンバー、様々な舞台で存在感を強烈に放っている千葉哲也、山本亨、山内圭哉。彼らの厚みある演技が、ドラマに深みを持たせている。



見どころを挙げればキリがない。舞台ではなかなか味わえない俳優たちの細かい表情や、観逃しがちな多くのギミックを、大スクリーンで再発見することができる。物語に渦巻く人間の業を目の当たりにして湧き上がる感情に、身を沈めて欲しい。

■ストーリー

闇の友が囁く——
復讐の道を進めと。
その終わり無き荒野へと続く道を。

遠い昔。

ようやくひとつの政権で統治され始めた島国・鳳来（ほうらい）の国にまつわる物語。

無実の罪で監獄島に幽閉された《伊達土門》（だてのどもん）。
10年の歳月が流れてもなお、濡れ衣を着せた者たちへの復讐を生きる糧にしている。
監獄島の奥深くに捕らえられていた《サジと名乗る男》の力を得て脱獄、
復讐への道を着実に歩む土門の前に立ちはだかったのは、
かつて将来を誓った女、《美古都》（みこと）だった——。

友の無念を晴らすことに命を掛ける復讐の鬼、伊達土門（だてのどもん）【上川隆也】
土門への愛を秘めながら国を立て直そうとする妃、美古都（みこと）【稲森いずみ】
美古都への忠誠心に生きる舞の名手であり剣の達人、刀衣（とうい）【早乙女太一】
浮名の父である豪快な鳳来国の大連（おおむらじ）、稀道活（きのどうかつ）【橋本じゅん】
命を救ってくれた土門を仲間たちと共に支えるハマソウ王朝の姫、ペナン【高田聖子】
蛮教の大神官となった鳳来国の学問頭、音津空磨（おとつのからまる）【栗根まこと】
勘は鋭いが女と欲に塗れた鳳来国の右大臣、稀浮名（きのうきな）【山内圭哉】
自慢の剣で美古都を守る武人頭、遊日蔵人（あすかのくらんど）【山本 亨】
美古都の父で道活と対立する鳳来国左大臣、京兼惜春（きょうがねせきしゅん）【千葉哲也】
解放の引替えに土門の復讐への協力を誓った謎の殺し屋、サジと名乗る男【堺 雅人】

土門の復讐は果たされるのか——
サジと名乗る男は一体何者なのか——
美古都の心の奥底に秘めた想いとは——

復讐が、その男のすべてだった——



■ 作品評

ロマンチックな非日常ドラマに、ラストは観客“萌え死に”。

“ロマンチックな人”とは、心の中の「何か」に囚われた人である。一般にそれは夢とか恋とか信念で、そのためなら死ぬまではいかないけど、ケガとか貧乏ぐらいならOKと思える人である。もちろん誰だってロマンチックにはなれるが、「腹減った」とか「出血大サービス卵1パック90円」みたいなものにそのうち気をとられ、長続きしない。ロマンチックは、あまりにしづとい日常の中では生きられないのだ。

『蛮幽鬼』のオープニングは、これが非日常——つまりロマンチック世界の物語だと宣言してあまりある。主人公は絶海の孤島の監獄に幽閉された、伊達土門。物語の幕開けは、この男の「おのれっ……この恨み必ず晴らす……覚えておけーっ！」という雄叫び。ここから10年以上、自分に罨をハメた男たちへの復讐に燃え続ける上川隆也は、テレビでのニュートラルな印象とはまったく別人、なんとも情熱的でドラマチックだ。続いて登場するのが監獄仲間の殺し屋、サジ。スラリと細身の堺雅人はザクザク人を殺しといて悪びれず、いつも浮かべている100万ドルの笑顔の裏には、言いようのない狂気が見え隠れする。手を組んだこのふたりとやがて対峙することになるのが、土門の祖国の宮廷に使える美貌の剣士、刀衣。大衆演劇の女形・早乙女太一は、切れ長の流し目と舞うような剣術の華麗さでウツリさせるが、実は血なまぐさい過去を抱えている。陰謀、裏切り、宮廷、殺人、幽閉と非日常ワード満載の世界で、心の中の「何か」に囚われる熱・冷・華の3人組は、みんながみんな紛れもないロマンチック男。それがぶつかり合う様は、例えて言うならハマる韓国ドラマのノリで、切なく熱くドラマチックにドロドロである。

この手の映画の弱点は、作り手や役者のテンションが切れると、観客が完全にしらけてしまうことだ。『蛮幽鬼』が成功しているのは、ヘビー級ロマンチックドラマを連発する劇団☆新感線の作品であること、そして逆説的だが、これが舞台の採録だからだと思う。「ゲキ×シネ」は映画で言えば究極の順撮り、しかも長回しの一発撮りで、そもそも達者な舞台俳優は緊張感を切らさず役に没入してゆく。ギラギラと憎しみをたぎらせてゆく瞳、高まるテンション、キレをいや増してゆく殺陣。それを舞台同様にリアルタイムで見る観客は、舞台同様にグイグイと引き込まれていってしまう。

さらにこの形態がある種、舞台を越えているのは、カメラワークにより明確に作り手の意図が表現されている点だ。劇場では観客はセリフを話す役者や動きに目をとられるが、その間も舞台上ではすべての役者が演技をしている。別の男と結婚したかつての恋人・美古都を、盗み見る土門の愛憎の眼差し。土門の復讐に協力しながら、その背後で暗い笑みを浮かべるサジ。キスシーン（誰と誰のかは内緒ですが）のアップでは唇に残った口紅を見て、ああ、ホントにやってるのね……と、まあ下世話な話ですが、これもまた「ゲキ×シネ」ならではの楽しみだと思う。

休憩を挟んだ後半は、もう見せ場に次ぐ見せ場。知られざる別の陰謀と復讐があきらかになり、ぐるんぐるんに入り組んだそれぞれの思いは、国の存亡とひとつの愛に集約されていく。そして怒涛の如く続く立ち回りが3割増しにカッコいいのは、土門もサジも、さらに同性だけど凜々しい皇女・美古都演じる稲森いずみも、サラッサラのストレートロングヘアだから。髪を結っている刀衣も、簪を抜き取って髪をなびかせるぬかりのなさだ。

そしてラストには、ある者は復讐の炎に焼き尽くされ、ある者は愚かな愛のために散ってゆく。なんつうロマンチック、終わる頃に観客のほうもまた萌え死にである。そんな男いるかよ！と突っ込む人もいるだろうが、んなこた全然わかってる。でも半径5m以内に腐るほどいるリアルな男を、なんでわざわざ映画館で見る必要があるのだろう。日常にいないからこそ、どっぷり浸って見たいのだから。

■出演者プロフィール


上川隆也 KAMIKAWA Takaya / 1965年5月7日生まれ

89年、演劇集団キャラメルボックスに入団。
95年にNHKドラマ『大地の子』の主役・陸一心で脚光を浴びる。
その後、97年にエランドール新人賞、98年『東京夜曲』で日本アカデミー賞新人俳優賞、2000年『梟の城』で日本アカデミー賞助演男優賞を受賞。
舞台以外でも、テレビドラマ・映画で活躍している演技派俳優。
このうえひでのり演出作品への参加は『天保十二年のシェイクスピア』(02)があり、劇団☆新感線には『SHIROH』(04)以来2度目となる。

【近年の出演作】

- <舞台> 『ヘンリー六世』(10)、 『その男』(09)、
 『ウーマン・イン・ブラック』(08)
<映画> 『私は貝になりたい』 『パコと魔法の絵本』(08)
<テレビドラマ> 『赤鼻のセンセイ』(09)、 『ルパンの消息』、
 『柳生一族の陰謀』(08)、 『スワンの馬鹿!〜こづかい
 3万円の恋〜』(07)、 『功名が辻』(06)


稲森いずみ NAMORI Izumi / 1972年3月19日生まれ

92年にモデル活動を開始。
94年にドラマ『上を向いて歩こう!』で女優デビュー。
『ロングバケーション』(96) 『ビーチボーイズ』(97) に出演後、『ハッピーマニア』(98) で初主演、以降も注目のテレビドラマに数々出演。
2005年『義経』の常磐役、08年『篤姫』の滝山役で時代劇でも存在感を深める。CMにも多数出演。
劇団☆新感線には本作が初参加となる。

【近年の出演作】

- <舞台> 『法王庁の避妊法』(03)
<映画> 『THE CODE/暗号』(09)
<テレビドラマ> 『アイシテル〜海容〜』(09)、 『篤姫』(08)、
 『華麗なる一族』(07)


早乙女太一 SAOTOME Taichi / 1991年9月24日生まれ

大衆演劇の劇団、劇団朱雀の二代目。
2003年に北野武監督作品『座頭市』で映画デビュー。
05年には同じく北野作品『TAKESHIS'』に早乙女太一役で出演。
大衆演劇の女形として早くから注目を集め、バラエティ番組やテレビドラマなどに次々に出演する。
08年には主演舞台『早乙女太一〜千年の祈り〜』が大劇場の最年少座長記録を塗りかえた。近年では外部の舞台にも参加、劇団☆新感線には本作が初参加となる。

【近年の出演作】

- <舞台> 『嗚呼、田原坂』 『早乙女太一 2010銀座初舞「美しき華」』(10)、
 『MISSING BOYS〜僕が僕であるために〜』(09)、
 『トゥーランドット』(08)
<映画> 『TAKESHIS'』(05)、 『座頭市』(03)
<テレビドラマ> 『あんみつ姫』(08)、 『しゃばけ』(08・07)、
 『堀部安兵衛』 『風林火山』(07)

堺 雅人 SAKAI Masato / 1973年10月14日生まれ



92年より劇団東京オレンジで活動開始。舞台以外でもテレビドラマ、映画で活躍し、多くの作品で独特の存在感を示している。

2004年、NHK大河ドラマ『新選組!』の山南敬助役で注目を集め、08年同じく大河ドラマ『篤姫』では將軍家定役を見事に演じ話題となる。

公開待機作に主演映画『武士の家計簿』(10年12月4日公開)、『日輪の遺産』(11年公開予定)、TVドラマ『ジョーカー 許されざる捜査官』(10年7月13日スタート)。劇団☆新感線には、本作が初参加となる。

【近年の出演作】

- <舞台> 『恐れを知らぬ川上音二郎一座』(07)、PARCO presents 『噂の男』(06)、
『喪服の似合うエレクトラ』(04)
- <映画> 『ゴールデンランパー』(10)、『クヒオ大佐』 『南極料理人』
『ラッシュライフ(黒澤編)』 『ジェネラル・ルージュの凱旋』(09)、
『アフタースクール』 『クライマーズハイ』 『ジャージの二人』(08)
- <テレビドラマ> 『官僚たちの夏』 『トライアングル』(09)、 『篤姫』(08)、
『ヒミツの花園』(07)



橋本じゅん HASHIMOTO Jun / 1964年2月25日生まれ

85年、大阪芸術大学在学中より劇団☆新感線に参加。

以降、劇団になくなくてはならない存在として、数々の劇団公演に参加している。

代表作の“直撃!ドラゴンロック”シリーズでは、激しいトレーニングをして臨む格闘家・剣轟天役として、多くの人を虜にした。2010年秋には、劇団☆新感線30周年興行『鋼鉄番長』で主演を務めることが決定している。また、7月16日からスタートする『うぬぼれ刑事』(TBS)にも出演するなど、劇団公演以外にも舞台・映画・テレビドラマで活躍し、存在感を示している。

【近年の出演作】

- <舞台> 『ファニー・ガール』(10)、 『ピーターパン』(10-09)、 『冬の絵空』(08-09)、 『風林火山』(08)、
『テイクフライト』(07-08)、 PARCO presents 『噂の男』(06)
- <映画> 『激情版エリートヤンキー三郎』(09)、 『隠し砦の三悪人』(08)
- <テレビドラマ> 『救命病棟24時 第4シリーズ』(09、第1話ゲスト)、 『未来講師めぐる』(08)、
『ハチミツとクローバー』(07)

高田聖子 TAKADA Shoko / 1967年7月28日生まれ

大学在学中にスカウトされ、劇団☆新感線に参加。

以来、看板女優として活躍するほか、自身で座長を務めるプロデュース集団「月影十番勝負」に続く「月影番外地」の公演も定期的に行っている。

劇団公演以外にも、多くの舞台作品に出演しながら、テレビドラマ・映画などでも活躍。幅広い演技は好評を博している。ブログ『高田聖子の見られていい日記』は、ほのぼのの継続中。

【近年の出演作】

- <舞台> 劇団☆新感線 『薔薇とサムライ』(10)、 『スプリング・ビー』(09)、
『イリュージョンコミック 舞台は夢』(08)、 NODA・MAP 『キル』(07)
- <テレビドラマ> 『火の魚』(09)、 『ホームレス中学生』(08)、 『芋たこなんきん』(06)

栗根まこと AWANE Macoto / 1964年8月7日生まれ

85年『ヒデマロ2』より、劇団☆新感線に参加。

現在の劇団の中核を担う存在である。

軽妙な動きと独特な声を持ち、知的ながらもどこか間の抜けたキャラクターなど、幅広い役柄をこなす。

劇団公演以外にも、舞台・映画・テレビドラマに数々出演。

鋭い人物観察眼と得意のイラストを活かして雑誌連載を持つなど、芸達者ぶりを多方面で発揮している。

【近年の出演作】

<舞台> 劇団☆新感線『薔薇とサムライ』(10)、『斎藤幸子』(09)、『冬の絵空』(08-09)、
『昭和島ウォーカー』(08)

<映画> 『インスタント沼』(09)、『ローレライ』(05)

<テレビドラマ> 『猿ロック』(09)、『トンスラ』(08)、『功名が辻』(06)

山内圭哉 YAMAUCHI Takaya / 1971年10月31日生まれ

92～99年までは中島らも率いる劇団リリパットアーミーに在籍、2001年からPiperへ参加。

外部の舞台にも多数参加。The Jazz Monks、hate77でのバンド活動も並行して行っている。

自身のプロデュースユニットwatmayhemの『パンク侍、斬られて候』では、脚本・演出・主演に加え、

劇中曲の作曲も行った。劇団☆新感線には、『IZO』(08)以来で3度目の出演となる。

【近年の出演作】

<舞台> 世田谷パブリックシアター『醜男』、Piper『THE LEFT STUFF』、阿佐ヶ谷スパイダース
『アンチクロックワイズ・ワンダーランド』(10)、NYLON100℃『神様とその他の変種』
watmayhem『パンク侍、斬られて候』(09)

<映画> 『パコと魔法の絵本』(08)、『真夜中のマーチ』(07)

<テレビドラマ> 『新選組!』(04)

<CM> バンダイナムコゲームス『ガンダム戦記』(09)

山本 亨 YAMAMOTO Akira / 1961年2月7日生まれ

79年ジャパンアクションクラブに入団。

90年『幕末純情伝』以来つかこうへい作品で活躍、96年からT P Tを中心に活動しており、新橋演舞場
『嵐が丘』(02)や、阿佐ヶ谷スパイダース『桜飛沫』(05)など数々の話題作にも参加。

いのうえひでのり演出作品への参加は『天保十二年のシェイクスピア』(02)、『リチャード三世』(08-09)
があり、劇団☆新感線には『髑髏城の七人～アカドクロ』(04)以来で2度目となる。

【近年の出演作】

<舞台> モダンスイマーズ『トワイライツ』(09)、THE・ガジラ『新・雨月物語』(07)

<映画> 『MONDAY』(00)

<テレビドラマ> NHK連続テレビ小説『ウェルかめ』(09)、『トップセールス』(08)

千葉哲也 CHIBA Tetsuya / 1963年10月27日生まれ

87年、演劇企画集団THE・ガジラに旗揚げから参加。

舞台を中心に、映画、テレビドラマでも活躍する。自身の演出作『スラブ・ボーイズ』で06年度、『広い
世界のほとりに』で08年度読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞するなど演出家としても活躍中。

いのうえひでのり演出作品への参加は、シス・カンパニー公演『怪談 牡丹燈籠』(09)、劇団☆新感線には、
『IZO』以来で2度目となる。

【近年の出演作】

<舞台> 『動物園物語』、『BLUE/ORANGE』、モダンスイマーズ『凡骨タウン』(10)、
流山児★事務所『ユーリタウン』(09)、『焼肉ドラゴン』(08)、THE・ガジラ『ヘル』(07)

<映画> 『山桜』(08)

<テレビドラマ> NHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』(09)

■スタッフプロフィール

<演出>

いのうえひでのり

60年1月24日生まれ。演出家・劇作家・劇団☆新感線主宰。80年に新感線を旗揚げ。

以来、新感線のほぼ全作品の演出を手掛け、笑いをふんだんに盛り込んだ《ネタもの》では作・演出を行う。ドラマ性に富んだケレン味たっぷりの時代活劇《いのうえ歌舞伎》は、新しいエンタテインメントの形として《新感線》というジャンルを確立させた。

劇団の本公演以外でも、『リチャード三世』(08-09)、『牡丹燈籠』(09)など、プロデュース公演の演出を多数手掛けている。最新作に、劇団☆新感線30周年興行[春]新感線RX『薔薇とサムライ』(10)があり、[秋]には、『鋼鉄番長』が控えている。

【受賞歴】

- 第14回日本演劇協会賞（『觸臚城の七人』『SHIROH』の演出において）
- 第9回千田是也賞（『メタルマクベス』の演出において）
- 第61回芸術選奨文部科学大臣新人賞（『メタルマクベス』の演出において）

<作>

中島かずき（なかしま・かずき）

59年8月19日生まれ。劇作家・脚本家。85年より座付き作家として新感線に参加。

『阿修羅城の瞳』『觸臚城の七人』などの物語性を重視したエンタテインメント時代活劇《いのうえ歌舞伎》を多く生み出す。

劇団公演以外でも、コミック原作やアニメ『天元突破グレンラガン』(07,09)の脚本・シリーズ構成、アニメ版『のだめカンタービレ フィナーレ』(10)のシリーズ構成を行うなど、演劇界に留まらず幅広い活躍をしている。最新作に、劇団☆新感線30周年興行[春]新感線RX『薔薇とサムライ』(10)があり、11・12月には舞台『ジャンヌ・ダルク』が控えている。

【受賞歴】

- 第47回岸田國土戯曲賞（『アテルイ』の脚本において）

■映像版スタッフ プロフィール

<ゲキ×シネ・プロデューサー>

金沢尚信（かなざわ・たかのぶ）

1969年生まれ。「映像単体で楽しむことができる演劇の映像」というコンセプトの基に、Eloshiba(イーオシバイ)のブランドを2001年に立ち上げる。劇団☆新感線を中心とした演劇の映像制作を、現在まで30作品以上手がける。また、これらの作品を映画館における上映を目指した、いわゆる現在の「ゲキ×シネ」企画を2003年にスタート。デジタルシネマの規格に対応した映像制作にいち早く取り組む。ゲキ×シネ全作品のプロデューサーを務める。

■ What's GEKI×CINE?

◀ <http://www.geki-cine.jp/> ▶

生のライブ感と映像ならではの表現が紡ぎ出す、
新感覚エンターテインメント《ゲキ×シネ》

ダイナミックな映像表現と迫力の音響で、演劇の映像を映画館で楽しむ新感覚エンターテインメント《ゲキ×シネ》。圧倒的な人気を誇る劇団☆新感線の舞台作品を、もっと自由に、もっと気軽に楽しめる良質な演劇映像として製作・提供。その作品を初めて観る人には衝撃を、生で舞台を体感した人には新たな楽しみ方ができる映像作りとなっている。

《ゲキ×シネ》はフィルムではなく、デジタルデータによって撮影・編集・配給・上映を行っている。デジタルシネマ技術の恩恵を受け、3時間を越える舞台の撮影を可能にした。SONY F950を中心としたCineAltaにてマルチカム撮影（『蛮幽鬼』では17台で撮影）を行い、HDCAM-SRにて24P収録。ポストプロダクションはDI工程を経て、ロールアウトしている。

◀History of GEKI×CINE▶	2003秋	《ゲキ×シネ》プロジェクトスタート
	2004春	『髑髏城の七人～アカドクロ』撮影 『阿修羅城の瞳2003』トライアル上映
	2004秋	『髑髏城の七人～アカドクロ』上映
	2005春	『髑髏城の七人～アカドクロ』上映
	2005秋	『SHIROH』上映
	2007春	『メタルマクベス』新宿バルト9 オープニング特別上映
	2007秋	『籠の森に棲む鬼』上映
	2008春	『ゲキ×シネ ツアー2008』上映
	2008秋	『髑髏城の七人～アカドクロ』初の海外進出（韓国にて上映）
	2009春・秋	『五右衛門ロック』上映
	2010初冬	『蜚蜉峠』上映



■ What's 劇団☆新感線?

◀ <http://www.vi-shinkansen.co.jp/> ▶

オリジナリティあふれた活劇で、日本エンタメ界の一角を築く

観客動員数を増やし、ひと公演の動員数は約10万人—市川染五郎、堤真一、天海祐希、などの豪華客演陣を迎え、舞台という限られたLIVE空間で体感する極上エンターテインメント。2ヶ月という長い上演期間にもかかわらず、今最もチケットが取れない劇団のひとつと言われる。

1980年、つかこうへい氏に傾倒した大阪芸術大学のメンバーで旗揚げ。“笑い”を意識したオリジナルのSF活劇をひっさげ東京へ進出。その後、座付作家・中島かずき書き下ろす時代活劇を主宰・いのうえひでのりがケレン味たっぷり演出する作品<いのうえ歌舞伎>シリーズ、生バンドでROCKを重視した<R>シリーズなどで、日本エンターテインメント界の一角を築く。今年、2010年で旗揚げ30周年を迎える。

☆いのうえ歌舞伎とは

神話や史実などをモチーフとし、ケレン味を効かせた時代活劇のシリーズ。
近年では、その持ち味に加えドラマに重きをおき、人間の業を浮き彫りにした作品作りへ転化している。

■作品情報

- タイトル **ゲキ×シネ 『蛮幽鬼』** (ばんゆうき)
- 出演者他 [作] 中島かずき [演出] いのうえひでのり
[出演] 上川隆也 稲森いずみ 早乙女太一 / 堺 雅人
橋本じゅん 高田聖子 栗根まこと / 山内圭哉 山本 亨 千葉哲也
- 公演記録 09年9月-10月◎新橋演舞場(東京) 11月◎梅田芸術劇場メインホール(大阪)
- ゲキ×シネ [映像製作] イーオシバイ [配給] ヴィレッチ ティ・ジョイ [舞台製作] 松竹 [著作] 松竹 ヴィレッチ
2010/日本/カラー/182分/5.1chサラウンド ※途中休憩あり

■ゲキ×シネ上映情報

- 公開日 **2010年 10月2日(土) 全国上映スタート!**
- 上映館 『蛮幽鬼』公式サイトに、最新情報を随時更新しております。公式サイトでご確認下さい。
- チケット **2010年6月12日(土) 前売券・発売開始 2,000円(税込)**
当日券2,500円(税込) 当日学生・小人券 1,800円(税込)
※前売券はご鑑賞前に指定券とお引換下さい。※学生・小人券は当日窓口のみ販売となります。
- 前売販売
 - ・チケットぴあ ◎0570-02-9999 <http://pia.jp/t> 店頭 ※Pコード:461-971
 - ・イープラス ◎<http://eplus.jp/>
 - ・ローソンチケット ◎0570-000-407 <http://l-tike.com> 『Loppi』
※Lコード 北海道地区:19111/東北地区:29222/関東・甲信越地区:39333/東海地区:48444/
近畿・北陸地区:59077/中国・四国地区:69666/九州・沖縄地区:87888
 - ・CNプレイガイド ◎0570-08-9999 <http://cncn.jp/gc-banyuki/>
 - ・上映館窓口
- お客様窓口 ゲキ×シネ上映担当 03-5361-3280 (平日12:00~17:00)
- 公式サイト <http://www.banyuki.com> ※携帯 <http://www.banyuki.com/m>
- 公式ブログ <http://gxcblog.exblog.jp> ※ゲキ×シネ公式ブログとなります。

■本件に関するプレスお問合せ先

予告編映像・宣伝用画像等をご用意しております。
《ゲキ×シネ》作品DVDプレゼント、チケットプレゼントなど実施予定ございます。
詳しくはお気軽に下記窓口までお問い合わせ下さい。

Palette(パレット) 境(さかい) 携帯:090-7414-7136 松浦(まつうら) 携帯:090-1467-3069
田中館(たなかだて) 携帯:090-1044-7690 Fax:050-3488-6109

●配給お問合わせ

株式会社ティ・ジョイ エンタテインメント事業部:佐々木/小川
TEL.03-3248-8174 FAX.03-3248-8176 〒104-0061東京都中央区銀座4-10-5三幸ビル本館5F

株式会社ヴィレッチ ゲキ×シネ担当:糸永(いとなが)/山谷(やまや)
TEL.03-5361-3031 FAX.03-5361-3032 〒160-0022東京都新宿区新宿3-3-8新宿OTビル7F